

2025年産 は おけさ柿栽培・防除暦

防除日を○印で記録しよう!

5月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

6月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
29	30						

7月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31			

8月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	31

9月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30					

J A 全 農 に い が た
羽 茂 果 実 協 会
小 木 お け さ 柿 生 産 組 合
赤 泊 お け さ 柿 栽 培 組 合
佐 波 農 業 協 同 組 合 羽 茂 営 農 農 機 課
佐 波 農 業 協 同 組 合 小 木 営 農 農 機 課
佐 波 農 業 協 同 組 合 赤 泊 営 農 農 機 課

摘蕾・摘果を徹底し、2L・L玉中心で高品質の柿を作ろう

ボルドー体系						散布量 (SS)	無ボルドー体系						注 意 事 項 な ど
回数	時期	対象病虫害	薬量/100 ℓ				回数	時期	対象病虫害	薬量/100 ℓ			
前年発生	3月 中旬迄 (発芽前)	カイガラムシ類	ハーベストオイル	50倍	2ℓ	250 (200) ℓ/10a	前年発生	3月 中旬迄 (発芽前)	カイガラムシ類	ハーベストオイル	50倍	2ℓ	越冬病虫害の密度を低下させるため粗皮削りを行う。 昨年度、カイガラムシ類多発園では4月下旬～5月上旬にモスピラン顆粒水溶剤☆2,000倍を散布してもよい。
臨時	5月 上中旬	ハマキムシ類 フジコナカイガラムシ チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	トクチオン水和剤 (展着剤加用)	800倍	125g	350 (300) ℓ/10a	臨時	5月 上中旬	ハマキムシ類 フジコナカイガラムシ チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	トクチオン水和剤 (展着剤加用)	800倍	125g	前年度うどんこ病の多発園及び風害を受けた園地では、灰色かび病対策としてオンリーワンフロアブル2,000倍、もしくはベルコート水和剤1,500倍を追加散布する。(連用は避ける。) ケムシ類が多発するおそれがある場合は、トクチオン水和剤に替えてサムコルフフロアブル10 5,000倍でもよい。 前年度サビダニ被害多発園では、新梢停止期頃にピラニカ水和剤2,000倍(☆)又はサンマイル水和剤1,000倍(☆)もしくはコテツフロアブル3,000倍(☆)でもよい。
1	開花直前	落葉病 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ カキノヘタムシガ	デランフロアブル☆ オルトラン水和剤	2,000倍 1,500倍	50mℓ 66g	400 (350) ℓ/10a	1	開花直前	落葉病 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ カキノヘタムシガ	デランフロアブル☆ オルトラン水和剤	2,000倍 1,500倍	50mℓ 66g	6月上旬から7月中旬は落葉病の感染期になるので、葉裏までたっぷり散布する。 デランフロアブルはカブレのおそれがあるので注意する。 デランフロアブルに替えてジマンダイセン水和剤500倍、もしくはベンコゼブ水和剤500倍でもよい。
2	6月中旬 開花 12日後	落葉病 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ ハマキムシ類 フジコナカイガラムシ	ICボルドー412 トクチオン水和剤 (展着剤加用)	50倍 800倍	2kg 125g		2	6月中旬 開花 12日後	落葉病 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ ハマキムシ類 フジコナカイガラムシ	オーソサイド水和剤80 トクチオン水和剤 (展着剤加用)	1,000倍 800倍	100g 125g	オーソサイド水和剤80はカブレのおそれがあるので注意する。 無ボルドー体系ではトクチオン水和剤に替えてオリオン水和剤40 1000倍(☆)でもよい。
3	6月下旬 開花 26日後	落葉病 カイガラムシ類	ICボルドー412 トランスフォーム フロアブル	50倍 1,500倍	2kg 66g		3	6月下旬 開花 24日後	落葉病 うどんこ病 カイガラムシ類	チオノックフロアブル トランスフォーム フロアブル	500倍 1,500倍	200mℓ 66g	無ボルドー体系でうどんこ病多発園ではチオノックフロアブルに替えてスコア顆粒水和剤3,000倍でもよい。 カメムシ多発園ではトランスフォームフロアブルに替えてスミチオン水和剤40 1,000倍またはスミチオン乳剤1,000倍でもよい。ただし、高温時に薬害のおそれがあるので注意する。
4	7月中旬	落葉病 カメムシ類 アザミウマ類	ICボルドー412 キラップフロアブル	50倍 2,000倍	2kg 50mℓ		4	7月上旬	落葉病 すす点病 チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類	ストライド顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 (展着剤加用)	3,000倍 2,000倍	33g 50g	カイガラムシ類多発園はコルト顆粒水和剤に替えてモスピラン顆粒水溶剤☆2,000倍を散布する。 カメムシ類多発園ではコルト顆粒水和剤に替えてロディー水和剤1,500倍を散布する。 ストライド顆粒水和剤の高温時散布は、薬害のおそれがあるので注意する。 うどんこ病多発園はストライド顆粒水和剤に代えてナリアWDG 3,000倍でもよい。
							5	7月 中下旬	落葉病 うどんこ病 カメムシ類 アザミウマ類	キノンドーフロアブル キラップフロアブル	1,000倍 2,000倍	100mℓ 50mℓ	
5	7月下旬 ～ 8月上旬	落葉病 うどんこ病 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ ハダニ類	ストロビー ドライフロアブル テルスター水和剤	3,000倍 1,000倍	33g 100g	350 (300) ℓ/10a	臨時	8月上旬	落葉病 うどんこ病 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ ハダニ類 カキノヒメヨコバエ	ストロビー ドライフロアブル テルスター水和剤	3,000倍 1,000倍	33g 100g	無ボルドー体系でカメムシ類の発生が多い場合、又は防除間隔が開いた場合は散布する。 7月下旬以降の高温時は薬害のおそれがあるので、展着剤の加用には注意する。 前年度うどんこ病多発園では、ストロビーDFに替えてケンジャフロアブル2,000倍を散布する(混用注意)。 テルスター水和剤に替えてテルスターフロアブル3,000倍(☆)でもよい。
6	8月中旬	うどんこ病 すす点病 カメムシ類 ハマキムシ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ	ベルコート水和剤 テッパン液剤	1,500倍 2,000倍	66g 50mℓ		6	8月中旬	うどんこ病 すす点病 カメムシ類 ハマキムシ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ	ベルコート水和剤 テッパン液剤	1,500倍 2,000倍	66g 50mℓ	テッパン液剤2,000倍にかえてサムコルフフロアブル10 5,000倍又はフェニックスフロアブル4,000倍でもよい。また防除間隔が開く場合は臨時で追加散布してもよい。 防除間隔が開き降雨が続く場合は、すす点病の感染のおそれがあるので、オーソサイド水和剤80 1,000倍を追加散布する。
臨時	8月下旬	カイガラムシ類	トランスフォーム フロアブル	1,500倍	66g		臨時	8月下旬	カイガラムシ類	トランスフォーム フロアブル	1,500倍	66g	※カイガラムシ類多発園は散布する。
7	9月上旬	すす点病 うどんこ病 カメムシ類 カキノヘタムシガ	トップジンM水和剤 アグロスリン水和剤 ☆ (展着剤加用)	1,500倍	66g		7	9月上旬	すす点病 うどんこ病 カメムシ類 アザミウマ類	トップジンM水和剤 アグロスリン水和剤 ☆ (展着剤加用)	1,500倍	66g	収穫前使用時期に注意して散布する。 高温時は薬害の恐れがあるため、展着剤の加用には注意する。 前年度炭疽病多発園ではトップジンM水和剤1,500倍に替えてベンレート水和剤3,000倍でもよい。
				1,500倍	66g					1,500倍	66g		

1 2L・L玉中心にするための栽培の方法

- ①摘蕾の方法
- ・1結果枝1蕾にする。
 - ・結果枝の中央部で下向き又は斜め下向きの蕾を残す。
 - ・葉が5枚以下の枝は蕾を全部取る。

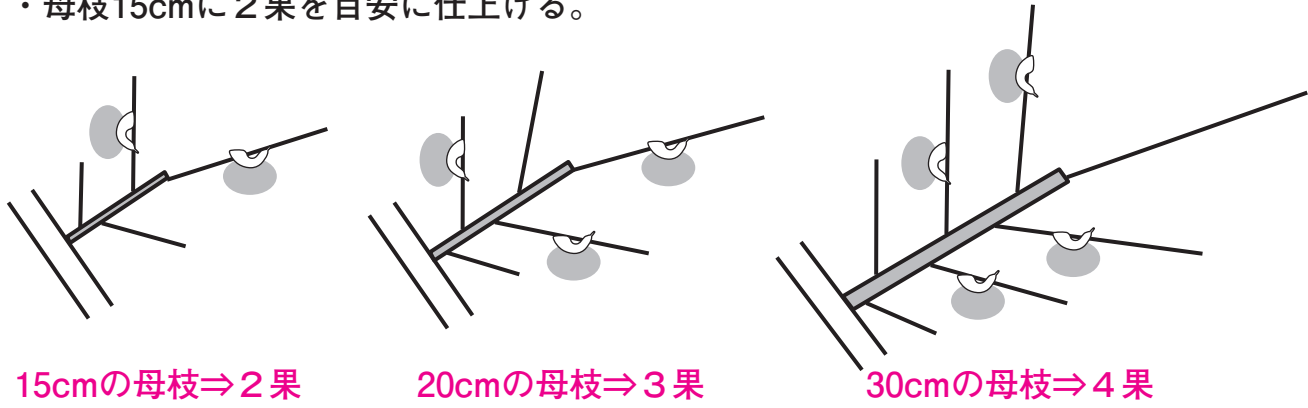


②仕上げ摘果の方法

- ・おけさ柿の母枝長と仕上げ摘果の基準

母枝長	10cm	15cm	20cm	25cm	30cm	35cm	40cm
着果数	1果	2果	3果	3～4果	4果	4～5果	5果

- ・生理落果の状況を見て7月末までに終了する。
- ・母枝15cmに2果を目安に仕上げる。



③補正摘果の方法

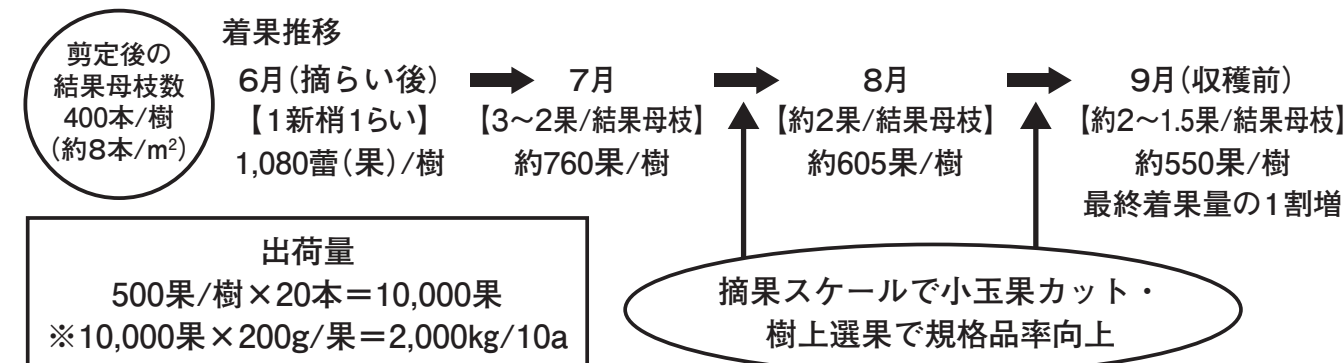
- ・仕上げ摘果が終わった後も、8月中旬まで小玉を中心に随時樹上選果を行う。

【摘果スケールの活用】

- ◆満開50日後に45mm穴より大きいとM以上。
- ◆満開57日後に50mm穴より大きいとM以上。
- ◆満開63日後に55mm穴より大きいとM以上。

④管理の目安

< 2ℓ/10a収穫する着果管理 (20本/10a (7m×7m) の場合) >



施肥量と施肥割合の目安

施肥量	年間N成分量目安	基肥 (50%) 2月下旬～3月上旬	礼肥 (50%) 9月上旬	追肥 7月上旬
基本パターン	11.8～16.8kg / 10a	2～3袋	2～3袋	1袋
老木樹・衰弱樹	16.8～21.8kg / 10a	3～4袋	3～4袋	1袋
強樹勢	6.8～11.8kg / 10a	1～2袋	1～2袋	施肥しない

- ・有機物は年内に施す(牛糞、鶏糞)。
 - ・礼肥は収穫開始頃をめどに施す。
 - ・刀根早生の施肥量は平核無の1～2割増しとする。
- 元肥や礼肥には、「ニュー柿元肥専用008」「果樹礼実肥専用555」をおすすめします。

2 落葉病を防ぐ方法

- ①葉裏の気孔から病菌が侵入するので、葉裏をねらって、丁寧に散布する。
- ②6月以降は10a当たり手散布の場合は400ℓ、SSでは350ℓ散布する。
- ③無風時を選んで散布し、SSでは散布幅を4～5m以上あけない。
- ④開花直前～7月中旬までの防除間隔は無ボルドー12日、ボルドー14日以内とする。

3 黒変果の出にくい柿を作る方法

- ①早期摘蕾と、7月中旬に仕上げ摘果を終了し、果実の前期肥大を促す。
- ②9月10日頃から反射マルチを敷き、下枝吊りをして果皮の微細な亀裂発生を防ぐ。
- ③整枝剪定と新梢管理により、受光体勢の良い樹づくりをする。
- ④降雨中や降雨直後に収穫した果実は黒変果が発生するので、果実が乾くのを待って収穫する。(ぬれた果実を収穫した場合は、速やかに水分を拭き取る。)

注) 農薬の使用にあたっての注意

1. 農薬を使用する場合は使用方法、使用上の注意など必要事項を必ず確認し、その効果と安全使用に注意する。
2. 散布液の調整は必ずゴム手袋とマスクをし、水和剤はバケツ等で一度溶かしてからタンクへ入れる。少量の水で混用しない。
3. 散布作業員は、帽子・マスク・メガネ・手袋・長袖の上着や防除衣等を必ず着用する。
4. 散布作業にあたっては、日中暑い時は避けて朝夕の涼しい時に行う。作業中に頭痛、めまい等気持ちが悪くなった場合は直ちに作業をやめる。
5. SS散布にあたっては、特に大事故につながる危険性があるので注意する。
6. 防除については隣接する田畑や住宅に飛散しないよう気をつける。
7. 使い残した農薬は密封、密栓し、薬品庫や薬品箱など一定の場所を決め収納する。
8. 防除暦に掲載されている薬剤以外のものを使用する場合は、JAもしくは普及センター羽茂分室へお問い合わせ下さい。

☆印がある農薬は毒劇物ですので、購入時も印鑑が必要となります。

農薬安全使用基準・登録農薬適正基準・混用事例表

使用回数 収穫前日数		殺菌剤		殺虫剤		対象病虫害名		殺菌剤		殺虫剤		対象病虫害名	
		使用回数	収穫前日数	使用回数	収穫前日数	使用回数	収穫前日数	使用回数	収穫前日数	使用回数	収穫前日数	使用回数	収穫前日数
5	3	5	2	3	4	3	2	5	6	2	3	6	3
7	前日	14	45	前日	14	30	90	前日	14	前日	14	45	—
オリオン水和剤40	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
オルトラン水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
キラップフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
コテツフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
コルト顆粒水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
サムコルフフロアブル10	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
サンマイル水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
スミチオン水和剤40	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
スミチオン乳剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
テッパン液剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
テルスター水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
テルスターフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
トクチオン水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
トランスフォームフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ピラニカ水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
フェニックスフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ロディー水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
モスピラン顆粒水溶剤☆	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○

- 混用して問題がなかった。
- △ 物理性、効果低下などの点で問題がある。
- × 混用できない。
- ▲ 薬害の点で問題がある。
- ※ 「巻」は令和5年度越王柿栽培組合防除暦に記載があった。

農薬の使用基準を遵守し、環境にやさしく安全で安心な柿を作ろう

産地の維持発展のため、新改植による園地の若返りと、担い手の育成に取り組もう